

## 山崎川をゆく（４）

山崎川は名古屋市東部の千種区にある猫ヶ洞池を源に流れる。でも、この目で山崎川を見られるのは、東部ではあまり多くはない。

猫洞通では、かなり前に暗渠になった。東山新池からの暗渠になるまえの「水路」はよく覚えている。この付近に住んで、もう 40 年近くになる。

本山交差点から、山崎川はやっと暗渠から飛び出し、この目で流れを見ることができる。コープあいち「本山生協」近くだ。

ここは長年にわたる「常連」だ。生協会館の会議室や 4 階ホールには、思い出がある。

中部の環境を考える会の例会、総会がここで開催された。とりわけ愛知万博の前後には、夕方からの会議によく来たものだ。

「生協」会館ということもあり、会議はいつも盛況であった。

ここには今も、日曜日に毎週のように自宅の星ヶ丘から歩いて買い物に来る。平日にも、名大の帰りに立ち寄ることが多い。

そんな時、いつも山崎川をのぞきこむ。本山から稲舟通には川沿いに桜並木が続き、目を楽しませてくれる。

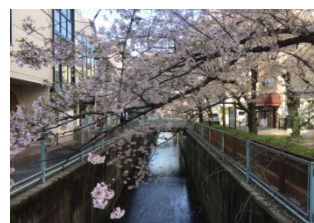
山崎川は鏡池通前あたりから、ふたたび暗渠に入る。どこから地上に顔を出すか、まえから興味があった。地図を見ると、名大中央図書館から西の方に行くと、山崎川が表示されているところがあった。田代本通 3 交差点付近だ。とにかく名大から、西に向かって歩いた。すると暗渠から出てくる山崎川に再び出会えた。昭和区の大島町のあたりだ。山崎川に再会でき、なんだか嬉しくなった。

川沿いには桜並木が続いている。西にすこし向かって、南に折れる。そこから真っすぐ瑞穂区の桜名所へと伸びる。

大島町の暗渠は、二つに分かれていた。

たぶん、一つは猫ヶ洞池・新池から本山、稲舟通のルートであろう。もう一つは、写真の名大の鏡池からのルートだろう。翌朝、鏡池に立ち寄り、東側に「水門」らしきものを確認した。

山崎川の源から本流へのルートがだんだんと分かってきた。下流の方にも目を向けていきたい。



(2017 年 4 月 23 日)